

泉佐野丘陵部緑地基本計画について

本計画は、市民活動家、地元関係者や学識経験者などからなる「泉佐野丘陵部緑地基本計画検討委員会」での検討を受けて計画(案)を取りまとめ、パブリックコメントを経て策定した。

公園の基本目標と「シナリオ型の公園づくり」

社会潮流の変化

- ・成熟社会(循環型社会実現への意識の高まり)
- ・魅力ある地域形成(郷土への関心の高まり)
- ・参画型社会(社会参加ニーズの高まり)

泉佐野丘陵緑地の持つ特性

- ・立地環境(山の辺、アクセス性、国際性)
- ・自然と向き合い畏敬し活用してきた歴史性・文化性
- ・丘陵の資産(ため池、樹林地)

公園の基本目標

- 1) 景観を重視した公園づくり
- 2) シナリオ型の公園づくり
- 3) 環境に配慮した公園づくり
- 4) 地域の活性化等に役立つ公園づくり

公園の将来像 . . . 1,3,4
将来像の実現に向けた手法 . . . 2
を基本目標

「シナリオ型の公園づくり」

21世紀に初めて開設する府営公園としての新しい取り組み

- ・様々なジャンルの活動主体が将来像を共有する
- ・話し合いながら活動を展開し事業を推進する
- ・将来像の実現に向け空間整備と利用や活動プログラムを一つの脚本(シナリオ)として実行する
- ・常に成果の評価と再検討を実施する

マスタープラン型とシナリオ型の違い

	考え方	事業展開イメージ
マスタープラン型	調査から整備まで主に行政で行い、実行計画をすべて決定、社会ニーズの変化など必要に応じ計画の見直しなどを実施。	基本目標[主に行政で策定] 調査・実行計画・整備・管理運営[主に行政で実施] 必要に応じ見直し[主に行政で実施]
シナリオ型	調査の段階から実行計画にいたるまで行政・府民とともに、基本目標を共有し、効果を確認しながら次の事業を展開。	基本目標[主に行政で策定] 調査・実行計画・整備・管理運営・評価・再検討[行政・府民とともに実施]

「シナリオ型の公園づくり」における府民参画の基本的な仕組み

基本目標の実現にむけ、公園の運営を協議・決定する運営会議を設立

運営会議が主催する講座を受講した修了生などを中心とするパーククラブを創設

運営会議の場における事業評価のもと、行政による基盤整備やパーククラブの活動、既存活動組織による活動協力を、PDC Aサイクルを実施しながら段階的に展開

行政	園路などの公園基盤、パークセンターなどの活動支援施設の整備、管理を行う。 また、資機材の提供などパーククラブの活動を支援する。
運営会議	府民、企業、NPO、学識経験者などで構成される組織(事務局:大阪府) 公園の基本目標に基づき公園整備や運営に関する方向性(シナリオ)を示す。 行政の諮問機能的な役割とパーククラブの取り組み内容の決定機能的な役割を持つ。
パーククラブ	運営会議が主催する講座の修了生などを中心に運営される組織。 公園の実行計画、整備に積極的に参画し、活動プログラムの企画提案・実施などを行う[新たな公園利用の担い手]。
既存活動組織	パーククラブと連携し活動協力・支援等を展開する。
利用者	公園を利用する一般ユーザー。 運営会議やパーククラブにより触発されたユーザー。

<「シナリオ型の公園づくり」におけるパーククラブの活動イメージ(例:小路づくり)>

園内の魅力的な場所(大きな木、見晴らしの良い場所など)をパーククラブで探索する。(調査)

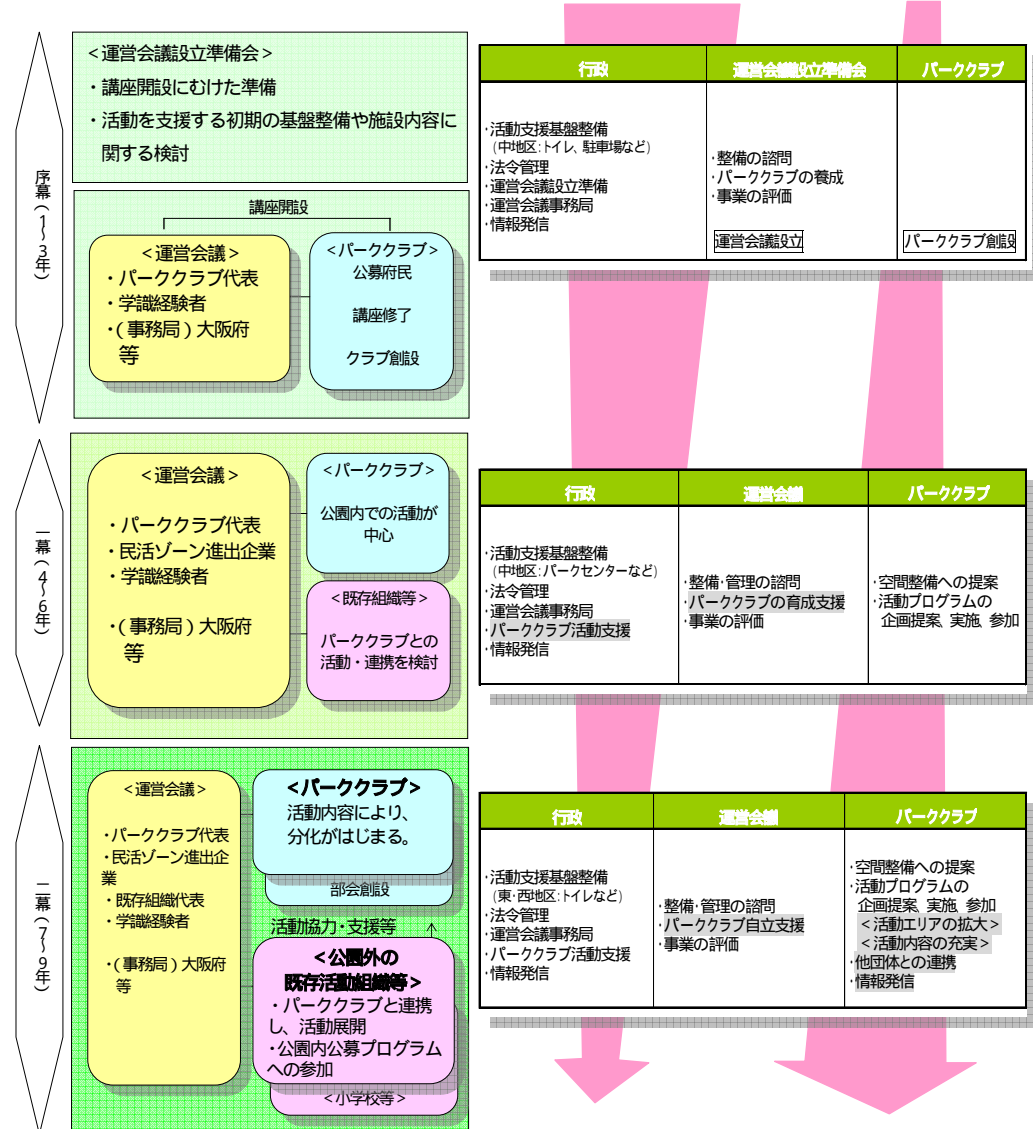
探索により発見された魅力的な場所へ行くための小路をパーククラブが提案し運営会議で調整・決定する。(実行計画)

行政による資機材等の支援のもと、パーククラブを中心に樹木の移植・伐採、階段づくりなどを行う。(整備・管理運営)

パーククラブが中心となって利用や活動プログラムを展開する。(管理・運営)

活動状況や利用状況を確認しながら次の整備内容やプログラムを検討する。(評価・再検討)

事業展開、役割分担の時系列イメージ



運営会議が主催する講座について

募集方法: 公募により講座受講生を募集。

講師: 民間事業者・地元の有識者・行政などを想定。

講座内容: 公共空間のルールとマナーの理解、基本目標の共有、公園整備や活動プログラムの企画提案にかかる基礎的知識・技術の習得など

講座修了後の展開: 講座修了後、パーククラブメンバーとなり活動を展開する。講座は継続的に実施し、パーククラブ員の充実を図っていく。